

会 議 録

会議の名称	平成 30 年度第 1 回茨木市環境審議会地球温暖化対策推進部会
開催日時	平成 30 年 8 月 9 日 (木) (午前 <u>午後</u>) 2 時 00 分 開会 (午前 <u>午後</u>) 3 時 40 分 閉会
開催場所	市役所本館 6 階 第 2 会議室
議 長	玉井 昌宏 (大阪産業大学工学部都市創造工学科 教授)
出席者	久米 辰雄、天保 好博、三上 雅弘、三輪 信哉
欠席者	なし
事務局職員	松山環境政策課長、守口推進係長、嶋職員
開催形態	公開
議題 (案件)	(1) 平成 29 年度地球温暖化対策実行計画の進捗状況について (2) その他 (事務局より報告)
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 名簿 ・ 平成 29 年度の進捗状況について・・・資料 1 ・ 平成 29 年度いばらきエコプラットホームのまとめ・・・資料 2

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
部会長	<p><開会> 事務局より挨拶</p> <p>それでは、会議次第に沿って議事を進めていく。本日の内容は報告が主になっている。では、資料1の「平成29年度の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。</p>
部会長	<p><議題> (1)平成29年度地球温暖化対策実行計画の進捗状況について事務局から説明</p> <p>以上について、意見や指摘はないか。</p>
A委員	<p>省エネ・省CO₂設備導入補助事業の9件の内容はこういったものか。また、補助の要件はどのようなものか。</p>
事務局	<p>空調やLED化が主である。省エネルギー改修の場合、投資額100万円あたり年間2t-CO₂以上、新エネルギー利用設備導入の場合、投資額100万円あたり年間1t-CO₂以上二酸化炭素排出量の削減効果があることが条件となっている。</p>
A委員	<p>条件などの補足を入れてはどうか。低炭素建築物はZEB、NearlyZEBなどのレベルから低炭素建築物となるのか。ZEBは国が力を入れて施工業者にも認定制度を導入して、国が推進している中で市全体で3件は少ない。定義を明確にして、施工業者の支援と実際に採用される方へのPRをする必要がある。</p>
事務局	<p>認定されるものの定義を追加する。</p>
部会長	<p>長期優良住宅の255件はどれくらいの割合か。全体の数がないので、多いのか少ないのか分からない。</p>
事務局	<p>新築全体の件数を確認する。</p>
A委員	<p>市域における市民1人あたりの温室効果ガス排出量5.8tというのが、高槻・吹田・豊中の平均と比べると1t以上多いが、この差はなにか。</p>
事務局	<p>計画策定時の2008年度データでは産業部門が0.8tほど他市より高かった。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
B 委員	各部門ごとに比較をすると、市の特徴が出るのではないかと。
部会長	3市の平均は4.65tだが、数値にばらつきがあるのか。もしばらつきがあるのであれば、それぞれについて書いたほうがいい。
A 委員	4ページの製造品出荷額を見ると過去5年から増加している。産業部門でCO ₂ が増えたと書かれているが、製造品出荷額あたりで見るとここ2～3年減っているのに、排出量が増えていることは事実ではあるが、書き方を工夫したほうがいい。
C 委員	エネルギー消費量の単位がGJになっているが、なじみがないのでkWなどわかりやすい単位に変えられないか。
事務局	GJ表記が基本だが、わかりやすい単位での表記を併記する。
D 委員	市の事務事業により排出される温室効果ガス排出量が増えた要因として、環境衛生センターでの発電量が減少し、電気使用量が増加したためとあるが、その傾向はこれからも続くのか。
事務局	茨木市の環境衛生センターでは廃棄物発電を行っており、炉を動かすほど発電できるが、最近のごみが減ってきており、炉の運転が3炉運転をしないでよくなり発電量も少なくなっている。この傾向は続くと認識しているが、今後炉の長寿命化の工事も行っていくので、そのときにはまた数字も変わってくるのではないかと認識している。
A 委員	単に排出量が増えたと書くだけではなく、目標を達成するためにどうするのか書いたほうがいい。
B 委員	市の事務事業といったときに環境衛生センターも含めて書くので、分かっていくくなっている。市の事務事業のなかで、環境衛生センターの占める割合がわかるといいのではないかと。事務事業の取組のなかにはコピー枚数を減らした、公用車をEVに変えたなどいろいろとあると思うので、それで7%減というのがいいのではないかと。
事務局	活動指標については当初からこの指標できているので、ほかの事務事業の取組も入れるなど書き方を工夫する。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
D委員	市の事務事業におけるエネルギー使用量はずっと下がってきたが H29 に突然増えている。H28 に比べ上がっていることを問題にするのか、H23 に比べて下がっていることを問題にするのか。上がっているのになにか理由はあるのか。
事務局	温室効果ガス排出量と同様、環境衛生センターの電気使用量が上がっているため、エネルギー使用量全体も上がっている。削減していることよりも増加していることが目立つので説明は改めたい。
B委員	エコオフィスの削減目標と地球温暖化対策実行計画の削減目標とは平行に動いているのか。
事務局	エコオフィスの削減目標については、省エネ法で毎年 1%ずつ削減することが求められていることに加え、ごみ処理施設の CO ₂ 排出量が減ることを見越して、7%削減という目標を掲げていた。H30 からのエコオフィスの削減目標第 5 版では、地球温暖化対策の推進に関する法律の 2030 年までに 26%削減に準じた形で、2022 年までに 12%削減と目標を掲げている。
A委員	ごみ焼却にいつまでもコークスを使うのかという議論はどこかの時点ですべき。確かに、処理方法としてオールマイティだが、CO ₂ 排出係数は高く、なんでも処理できるからごみの分別が進まない。ただし、高温でコークスを使っているため、発電量は増えるというのはある。次のごみ処理施設の更新計画があるときには、中長期ビジョンで本当に今のままでいいのかという議論をぜひしてほしい。
B委員	ごみ焼却炉の建て替え計画は何年くらいから始まるのか。
事務局	建て替えするかどうかと議論した結果、長寿命化することになった。現在、長寿命化計画を作成しているため、2～3年後に長寿命化の工事が始まると思われる。
B委員	6 ページのごみ減量に関する啓発について、実施回数と併せて受講者数のグラフもあったらいいと思う。高効率給湯器導入件数は、累積数もわかると、全世帯数のうち何%まで普及しているのかわかるので、掲載できないか。
A委員	高効率給湯器の定義を入れたほうがいい。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
C委員	高効率給湯器が普及して省エネが進んでいるとあるが、どれくらい省エネになっているかわからないか。従来型の給湯器と高効率給湯器でこれくらい CO ₂ を削減できるという値を使って、数字を出したほうが理解しやすい。
A委員	再生可能エネルギーは、固定価格が下がったから導入件数が下がりましたと書くだけではなく、それを受けてどうするのかという施策がないと、これからますます下がっていく。太陽光発電を補う施策や太陽光発電をもう一回普及させる施策がないと、このままだと下がっていくのは仕方がないとは読み取れない。
事務局	市としては引き続き太陽光発電の導入を促進していきたいと考えているので、書き方を改めたい。
C委員	9 ページ EV・PHV の充電設備が2年で3台しか増えていないが、少ないのではないか。充電設備は市の所有か。
事務局	民間の設備で、地点数で把握している。
C委員	台数だと勘違いされてしまう。何箇所何台という言い方のほうがいい。
A委員	公用車への低燃費車の導入とあるが、分類がよくわからない。例えば、軽自動車4台というのは、普通の軽自動車を低燃費車として導入していると思うが、他は何を基準に低燃費車としているのか。
事務局	低燃費車の内訳が分かれば説明を入れたい。
部会長	8 ページの市内在籍自動車数の1世帯あたりの保有台数はいらないのではないか。
B委員	10 ページの街路灯のLED化によって何 kWh 減ったのか記載があるといい。
事務局	前回もご意見いただいたが、担当課によると数値を出すのは難しいとのことだった。
A委員	推定であれば把握できるのではないか。数値を出すと大きなインパクトがあると思う。H32 までに 100% 達成ということも、他ではなかなかないと思うので、しっかりアピールしていったほうがいい。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
A委員	朝市・青空市をPRした結果、買いに来る人は増えているのか。食料品の地産地消はCO ₂ の削減にとっても有効。例えば、北海道のものと地元のものでは、輸送によって排出されるCO ₂ が大きく異なる。PR回数としては多いと思うが、結果として来てくれる人が増えていなければ意味がない。
B委員	北海道から輸送する場合と比べると、フードマイレージは8分の1から10分の1になるのではないか。
D委員	茨木産の野菜を使っているものがあれば買ってくださいと広報がされているが、茨木産のものを買うところがない。市街地だと総持寺のみしま館のみで、茨木駅のほうにはない。あとは山間部の見山の郷くらいか。
A委員	地方に行くと道の駅にたくさん地元の商品が置いているが、都心だと道の駅がないので、地元の商品を買おうと思ってもどこに行けば買えるのかよくわからない。
B委員	大手スーパーの軒先で朝市ができたらとてもいい。いつも行ってるスーパーに地元の商品が売っているというのは市民の方への周知にもなる。
A委員	大学で開催できると教育にも繋がるのではないか。
B委員	11 ページの環境家計簿は 1000 冊作成して何冊使ったのか。各市とも環境家計簿を行なっているが、なかなか普及せずに困っている。実数が出たらいいかなと思う。森林保全事業市民ボランティアの養成とは、森林の手入れをできるセミプロみたいな人を養成するというものか。
事務局	そうである。
D委員	養成講座はたくさんあるが、普段知ることができないことを学べるということで参加する人が多く、なかなか実際のボランティアには繋がっていないことが課題となっている。ことばがなかなか普及しないのが環境関係に多いと思うが、COOL CHOICE CHALLENGE というのもなかなか耳になじまない。それに対して、地産地消という言葉はすぐにわかるし、もっとわかりやすいことばでアピールしてほしい。
B委員	ホームページに掲載するとき用語集のようなものがどこかにリンクしているのか。一生懸命これを読んでくれる人がいた場合に、用語集があるといいかと思う。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
部会長	<p>続いて、資料2について事務局より説明をお願いします。</p> <p>(2)「平成29年度エコプラットホームのまとめ」について事務局から説明</p>
部会長	<p>以上について、意見や質問などないか。</p>
部会長	<p>それぞれの団体の取り組みがあつて意見交換とあるが、どういう意図で行なっているのか理解しにくい。</p>
事務局	<p>エコプラットホームは緩やかな意見交換の場として、いろいろな主体のかたに来ていただいて、活動内容の紹介と市の事業に対してご意見やアイデアを出していただきたく開催している。</p>
A委員	<p>最初にいばらきエコプラットホームのねらいや趣旨があるといいと思う。</p>
D委員	<p>具体的なイベントの話が出ているが、イベントに参加していない人からすると具体的過ぎてわかりにくい。意見交換のエコポイント制度についての5つめで「魚をとるイベントに参加する人は環境に興味のない人だが」というのは表現として適切ではない。</p>
A委員	<p>そのような人もいるかもしれないが、興味があつて参加している人もいるはずだ。</p>
事務局	<p>表現を改める。</p>
B委員	<p>この組織がそこからなにか生まれてくるという感じではないので、今回こういう目的で集まっていたというように、市がリードしたほうがいい。</p>
部会長	<p>地球温暖化対策ということも関係があるはずだが、あまり関係なくなつてきているのではないか。もう少し方向性を出したほうがいい。</p>
部会長	<p>他に何か意見等はあるか。無いようなのでこれで閉会する。</p> <p><閉会></p>